

保護者・地域の皆様

学びの広場

平成22年7月20日

第3号

戸田市立戸田第一小学校

7月 国語パート

国語パートでは「自分の考えを持ち、それを表現するのにふさわしい表現方法を選んで伝えていく子」を育てていきたいと考えております。その姿に迫るために「基本的な言語能力を習得させ、多様な場面で、その能力を活用できる子」というテーマを設定しました。

授業では文章を読む学習で身に付けた力や前年度までに学習して身に付けてきた力を、書く場面で活用できるように研究を進めています。子どもたちが「書く」学習を行う際には、以下のような段階を踏んで学習を進めていきます。

| | |
|----|-----------------------|
| 取材 | 書く材料を集めます。 |
| 構成 | 文章のまとまりやつながりを考えます。 |
| 記述 | 実際に文章や詩を書きます。 |
| 推敲 | 書いた文章を読み返したり直したりします。 |
| 交流 | 書いたものを読み合ったり発表したりします。 |

それぞれの段階で基礎的な力を身に付け、自分の考えを書き表せるように指導しています。5年生では「言葉の研究レポート」という学習を6月に行いました。

5年生 言葉の研究レポートの実践

「かばやき」の「かば」って何だろう・・・。
「どうしてくつの上にはくのに『くつ下』なんだろう。」
「ハンバーグは円いのにどうして『半バーグ』なんだろう。」



言葉の語源や使われ方は様々です。自分が調べてみたい言葉をいくつか集めて調べ（取材）、調べたことがらをレポート形式のメモにまとめました（構成）。レポートの書式に沿って研究レポートを書き（記述）、自分や友達の作品を読んで加除訂正をします（推敲）。最後に発表原稿と発表資料を作成して研究発表会を行いました（交流）。

取材でたくさんのメモを集める児童、「早く書きたい」という意欲を見せる児童、家で発表練習をする児童等、自分の考えを進んで表現しようとする姿がたくさん見られました。

【メモをもとにしてレポートを書いています】

楽しく取り組む 書く「場」の工夫

「今日は作文を書きましょう」とか「考えをまとめましょう」と言うと、「面倒くさいな」「難しいな」というような声が聞こえてくる場合があります。しかし、「書くことは考えること」と言われているように、書くという活動は自分の考えを探るためにとっても大切なことです。また、「何のために、誰に向かって」書くのかを意識させ、その場に応じた伝え方、書き方を学ぶことも必要となります。

そこで、子どもたちが楽しく飽きることなく書き進めていけるように、平紙や日記、新聞、○○カード等、様々な場面を用意して書く活動に取り組んでいます。以下に、各学年の取組をご紹介します。（5年生の取組は、左面で紹介しております。）

1年生

「てびみをかこう」という単元で、ひらがなが書けるようになった子どもたちが、速く書いた祖父母に一生懸命分を考えて書いています。

「おじいちゃん、おげんきですか。ぼくはげんきです。あまがのおはながここさきました。なつやすみはりょうこうしようね。」自分の気持ちを手に伝えられるようになってきています。

3年生

「おもしろいもの、みつけた」どこで、どんなものを見つけたのか、分かりやすく書いて友達に知らせるために、次のような流れで書く活動に取り組みました。

- ① 学校や家のまわりで見つけたものの中から知らせたいものを決める。
 - ② おもしろいと思ったところ、様子、様子など、事がらごとにカードにくわしく書く。
 - ③ カードをもとに、全体の組み立てを考えて文章を書く。
 - ④ 書いた文章を読み直し、誤字や漢字の確認をする。
- 意欲的に課題を見つけ、事情のカードをもとに進んで書く活動に取り組みました。また、友達の作文を読み合い新しい発見もあり、楽しく学習ができました。

2年生

2年生では、児童の書きたい、伝えたいという思いを大切にしたいと考え、自分たちの身近なものを題材に取り上げました。

生活科のミニトマトの観察で、大きさ・形・色などを目で見ると、手でさわると、においをかぐ、音をきくなどを整理して書くことを指導し、さらに完成した文を友達と読み合うことで自分では気がつかない文章表現の仕方などを学び合うことができました。

4年生

「新聞記者になろう(伝えたいことをはっきりさせて書こう)」という単元で、始めに、新聞の形式と内容を調べ、一つの紙面にいるいろいろな内容があり、「読んでみたい」と思う見出しがついていること、特に目立たせたい内容は裏で囲んであることに気がつきました。

次に、その気づいたことを話し、グループごとにどんな新聞を作るか話し合い、出来事や事件を正しく伝えるために、取材したりメモをとったりアンケートをとったりして、新聞を仕上げました。できあがった新聞は座下に掲示し、他学年にも自由に読めるようにしました。読んでもらっている時の子どもたちの表情はとても嬉しそうでした。



6年生

「森へ」という未知の自然の物語を題材に、効果的な表現として、五感を働かせた表現、擬人化や比喩表現、問いかけによる筆者と読者の一体化などを学びました。

表現の工夫が、読み手の想像力を刺激し、より生き生きとした深い読みをもたらすことがわかると、今度はそれを自分も使ってみようと思うものです。子どもたちの作る短文の中には、これらの表現が少しずつ増えていて、これからの文章作りが楽しくなってきました。

まめの木

まめの木は、ことばのわの時間に文の復習を行っています。平本の字のすぐ横にマスを作成しました。こうすることで、復習しやすくなります。子どもたちは、集中して文章を最後まで書き写すことができます。

また、国語の時間は体験したことを文章に書く練習をしています。文の型を示したお平本をわたします。そこには、ところどころあいているところがあり、自分の感想や楽しかったことを考えて入れられるようになっています。その型に当てはめながら、文章を完成させます。型を写すことで、書き方を学ばせています。